

令和6年7月27日(土)まで行われた第106回全国高等学校野球選手権石川大会において、小松大谷高等学校が優勝し、第106回全国高等学校野球選手権の石川県代表校となりました。

令和6年7月30日(火)に石川県庁4階の特別会議室で、石川県知事表敬訪問が行われました。

石川県知事 表敬訪問

馳浩・石川県知事から

激励を受ける小松大谷野球部



石川県高野連会長から

激励金贈呈を受ける小松大谷野球部



7月30日 馳浩・石川県知事と大会に意気込む小松大谷野球部 = 石川県庁

穴水高校野球部の東野魁仁主将が、開会式の先導役に

令和6年7月27日（土）

今年1月1日に石川県で発生した能登半島地震（マグニチュード7.6、最大震度7）で、復興途上の被災地では今も多くの被災者が困難な生活を送っている。

被災地の球児として穴水高校野球部の東野主将が、甲子園の入場行進先導役に選ばれた。地震では学校のある穴水町も震度6強を記録。東野さん自身も仮設住宅で避難生活を余儀なくされた。地震当時の部員は4人だったが、新入生が加わって部員10人で石川大会に2年ぶりに単独校として出場。1回戦で惜しくも敗れたが、エースで三番打者として2点適時三塁打を放つなどして活躍した。



開会式・入場行進



インタビューを受ける先導担当した
東野魁仁主将（穴水）



阪神甲子園球場前で

左から東野魁仁主将（穴水）
と 細口權翔選手（穴水）



歓迎を受ける小松大谷高校野球部

8月7日（水） 第106回全国高等学校野球選手権大会が開幕

= 阪神甲子園球場ほか



開会式で先導する穴水高校野球部 東野魁仁主将
「朝日新聞社撮影・提供」

8月7日（水） 開会式



入場行進する小松大谷の選手たち
「朝日新聞社撮影・提供」

= 阪神甲子園球場



七回表 無死一・二塁、田西の2点適時三塁打で
 二塁走者山崎と一塁走者石浦が生還。
 迎え入れる東野②

「朝日新聞社撮影・提供」

8月8日（木） 1回戦 明豊－小松大谷



歓喜に沸く小松大谷の応援席

「朝日新聞社撮影・提供」

= 阪神甲子園球場



完封した西川投手（右端）



歓喜に沸く小松大谷の応援席



試合後、駆け寄る両チーム



試合後の整列



校歌を歌う小松大谷の選手たち



スコアボード

